

持続可能な未来への道

メーカー各社 SDGs の取り組み

Vol.16

ヘラマンタイトン株式会社

今や、企業の共通言語となりつつあるSDGs。とりわけ、電設資材メーカーとの親和性は高く、2030年までに達成することを目指すSDGs17目標のうち「07:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「08:働きがいも経済成長も」「09:産業と技術革新の基盤をつくる」「11:住み続けられるまちづくりを」「12:つくる責任 つかう責任」「13:気候変動に具体的な対策を」などは、電設資材メーカーの企業活動そのものとも言えます。



そこで、全日電材連賛助会員の電設資材メーカー各社を順番に訪問し、その先進的な取り組みをご紹介します。

ヘラマンタイトン株式会社 概要

創 立：	1970 年 10 月
代表取締役社長：	関 智見
従 業 員 数：	338 名 (2025 年 3 月現在)
事 業 内 容：	電気、電子および情報通信用配線部材の製造、販売、研究開発、輸出入等
H	P : https://www.hellermannntyton.co.jp



沿革

1970年 10月	タイトン結束システムの輸入、製造販売のためにボーソープ社（イギリス）、協立電業株式会社、三省物産株式会社の3社出資で会社設立 東京都中野区東中野に本社を置く
1972年 1月	大阪営業所開設
1977年 10月	名古屋出張所開設
1986年 3月	兵庫県宍粟郡安富町に兵庫工場竣工
1992年 10月	仙台営業所開設
1993年 10月	兵庫第二工場竣工
1996年 6月	ISO9001認証取得
1997年 4月	福岡営業所開設
11月	中国にヘラマンタイトン(Wuxi)エレクトリカルアクセサリーズ社を設立
1998年 1月	本社を東京都渋谷区広尾に移転
2002年 3月	ISO14001認証取得（兵庫工場）
2003年 6月	ISO9001:2000認証更新
2006年 2月	協立電業株式会社と三省物産株式会社がヘラマンタイトングループに株を譲渡し、同グループが株主となる
4月	社名を「タイトン株式会社」から「ヘラマンタイトン株式会社」に変更
2008年 4月	本社を東京都渋谷区笹塚に移転 OHSAS18001を兵庫工場で認証取得
2019年 1月	物流センターを神戸に移転
2020年 4月	ISO45001を兵庫工場で認証取得
2020年 10月	創立50周年を迎える
2023年 2月	物流センターを姫路に移転

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「人材」、「地球環境」、「製品」 「ガバナンス」をサステナビリティ戦略 における重点分野に



(文中での敬称は略させていただきます。)

名からお話を伺いました。

役、別所俊宏管理部マーケティング課リーダー、林大洋商品部商品開発課アシスタントマネージャーの3名からお話を伺いました。

を開発、販売してまいります。

また、環境政策の進んでいる欧州企業のグループ会社として、環境への取り組みは早くから行っており、業界初となる「植物由来プラスチック製結束バンド」

界標準となっています。

特に、代表製品のインシュロックは、電気工事や通信工事の現場においては欠かせず、今では農業やDIYなどの分野でも幅広く使われる結束システムの世界標準となっています。

1970年10月に設立、今年で55周年を迎えます。

各国で事業を展開してまいります。

縁保護・管理・接続製品の製造・販売会社として世界

で設立。以来90年以上にわたり、結束・固定・識別・絶

へラマンタイトングループは1935年にドイツ

です。※「インシュロック」はヘラマンタイトンの登録商標

シユロック®で知られるヘラマンタイトン株式会社様

第16回の訪問メーカー様は、結束バンドの「イン



別所俊宏
管理部マーケティング課
リーダー

岩城慶子 取締役

林大洋
商品部商品開発課
アシスタントマネージャー

■ヘラマンタイトン株式会社 の歩み

編集部 まずは、簡単に会社のご紹介をさせていただきますか。

管理部 当社は1970年10月にタイトン結束システムの輸入、製造販売のため、英国ボーソープ社、協立電業株式会社、三省物産株式会社との3社出資にて会社を設立、今年で55周年を迎えます。

当社の特徴として、国内に生産拠点があることが挙げられ、1986年に兵庫県宍粟郡安富町に兵庫工場を竣工、現在は第二工場と物流センターも構え幅広く事業を展開しています。

ヘラマンタイトングループに関しては、1935年にドイツで設立、30カ国以上の販売拠点と10カ国以上の生産拠点をもち、グローバルに事業を展開しています。

岩城 外資系企業のグループ会社ではありますが、日本での生

産・販売は当社が全て責任を負っています。海外グループ会社から一部製品を輸入したり、金型を融通しあったりと、グローバルネットワークを活かしたサプライチェーンを構築できることは、グループ会社である大きな強みだと言えます。

■ヘラマンタイトンの SDGs取り組み

編集部 ヘラマンタイトン様ではどのようにSDGsに取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

岩城 グローバルに事業を展開する企業として、カーボンニュートラルなビジネスの推進、サステナブルな製品の提供、国際基準に照らした推進計画の立案に向けて、グループ共通の目標を掲げ、数年前からSDGsに取り組んでいます。

特に、「人材」、「地球環境」、「製品」、「ガバナンス」の4つをサステナビリティ戦略における重

点分野として取り組んでいます。

■「地球環境」分野での 取り組み

編集部 SDGs達成目標を教えていただけますか。

岩城 重点分野「地球環境」における数値的な目標としては、2025年までに弊社が使用する電力の25%を再生可能エネルギーから調達することを目標にし、現在のところ順調に推移しています。さらに2030年までには100%を目指しています。

それと共にエネルギーの効率的な使用も図っています。ISO50001(エネルギーマネジメントシステム)取得を目指して社内プロジェクトチームを立ち上げ、準備を開始しており、2027年に監査を受ける予定です。

編集部 目標達成に向けての具

体的な施策は。

岩城 現状は電力会社からの買電ですが、再生可能エネルギー100%はかなり高い目標数値です。そのため、工場の成型機など製造設備のつひとつのエネルギー使用量を「見える化」することで、エネルギーの効率的な活用を図っていきたいと考えています。

こうした取り組みには一定の投資が必要であり、コストもかかります。しかし、自社の利益だけでなく、環境改善に貢献する企業の責任として、優先的に取り組むべき課題です。

資源効率の面では、2002年に兵庫工場においてISO14001を取得して運営しています。ランナーのような製造過程で発生したプラスチックを再利用するために粉砕して、リグラインドし活用したり、廃プラスチックをサーマルサイクルに活用することなどは当たり前のように実施してきました。

今後も環境負荷を下げるため、さらに努力を続けていきます。

■「人材」分野での取り組み

編集部 「人材」分野での取り組みはいかがでしょうか。

みはいかがでしょうか。

岩城 当社では、よりサステナブルな未来に向けて、差別がなく、尊敬、インクルージョン、多様性、誠実を行動様式の基盤とする職場環境の実現に努めています。コンプライアンスやジェンダー、ハラスメントなどの研修は従来から定期的に実施していますが、チームワークを重視してより良い成果を出すことを目指して、標語を掲げ、今年から本格的に取り組んでいます。

編集部 具体的にはどのような取り組みなのでしょうか。

岩城 例えば、次のような取り組みです。

・パ育休の取得促進……希望日数、3段階に分けて取得直近の取得率は50%

・健康診断時の追加診断補助(最大2万円、今年から)

・専門分野の研修を予算化

・集合研修の実施(年1〜2回)

編集部 集合研修はどのような内容でしょうか。

内容でしょうか。

岩城 マネージャークラスやリーダークラスの従業員を1泊2日で集め、当日に3〜4のテーマを提示してグループごとにディスカッションしてもらった結果を発表してもらうという内容です。

弊社には6か所拠点がありますが、別々の拠点の従業員が実際に対面することは多くないため、研修だけでなく親睦を深めることを目的に実施しています。

実際に参加してもらったお二人、感想はいかがですか。

林 なかなか遠くの拠点の従業員と会う機会はないのですが、

1回会って話をする、その後のコミュニケーションが円滑になりますので、参加できてよかったです。

別所 様々な年代や背景、考え方の違う人と意見を交換したことは自分にとって非常に刺激になりましたし、組織を強くするために良い機会だったと思います。

編集部 電材系の会社で女性の管理職の方はまだまだ少ないですが、女性活躍についてはどのようにお考えでしょうか。

岩城 マネージャーやアシスタントマネージャークラスで増えてはいます。ジェンダーの区別なくは基本ですが、そもそも男性従業員の方が割合が多いためと、専門性を活かした現場志向の方がいるため、徐々にしか増やせていないというのが現状です。

編集部 「製品」分野でのSDGsはいかがでしょうか。

別所 ヘラマントイトングループの共通ブランドとして、サステナブル製品シリーズの「Source」ブランドを展開しています。

「Source」は、二酸化炭素の排出量が比較的少ない材料やリサイクル材などから製造された製品群「reSource」、再生可能な植物由来の原料または地下資源由来の原料から製造された製品群「earthSource」、海洋環境から回収されたプラスチック素材や、水生植物から作られるプラスチック素材で製造された製品群「oceanSource」、廃棄物の削減や耐用年数向上のほか、その後の再利用やリサイクルの可能性などをサポートする製品群「bydesign」の4つのサブブランドに大別されます。

このうち国内では、「earthSource」と「bydesign」ブランドを展開、展

■「製品」分野でのSDGs

示会などでもSDGs製品としてPR活動を行っており、注目されていると感じます。

岩城 「earthSource」

ブランドで展開している「ガルバロック」は耐候性に優れ、太陽光発電が隆盛し始めた時代に、太陽光パネルに最適な結束バンドとして先駆的に売り出したところ、大ヒットしました。通常の66ナイロンのものです

と、すぐに破断してしまう恐れがありますが、11ナイロン製のガルバロックは耐候性と耐塩害性に優れており、長期間にわたって安定的にケーブルを保持できます。環境にやさしく耐久性を実現できる結束バンドです。

編集部 SDGs商材を拡販す

るための電材卸会社様への要望は。

別所 展示会でのPR活動や製品カタログなど各種コンテンツを用意しています。ご相談いただければ、色々な形でご対応させていただきます。

SDGsの取り組み 将来展望と課題

編集部 SDGsの取り組みの将来展望と課題は。

岩城 グローバルに展開している

サステナビリティプロジェクト4つの重点分野の中でも「環境負荷の低減」と「労働安全衛生」の二つを日本では重視しています。環境マネジメントシステムのISO14001、労働安全衛生のISO45001ともに早くに取得して目標に向けて取り組んでいます。

目標の実現にはコストも維持していくためのリソースもかかりますが、企業の社会的責任として、果さねばならないこととして、経営目標に盛り込んで実施しています。

ただ、人によってどこまでSDGsを重視しているかの意識にばらつきがあるのが現状で、それでは目標が達成できませんから、研修などを繰り返し返して意識の同調を図っていきたいと思っています。

理想は全従業員が同じレベルと同じ士気で目標を達成することです。



OceanSourceは、海洋環境から回収されたプラスチック素材や、水生植物から作られるプラスチック素材で製造されたヘラマンタイトン製品です。



ByDesignは、廃棄物の削減や耐用年数向上のほか、その後の再利用やリサイクルの可能性などをサポートするヘラマンタイトン製品です。



ReSourceは、リサイクル材またはバージン素材などから製造された二酸化炭素排出量が比較的小さいヘラマンタイトン製品です。



EarthSourceは、再生可能な植物由来の原料または地下資源由来の原料から製造されたヘラマンタイトン製品です。



SDGs

いちおし

商品



生分解性インシュロック：生分解性プラスチック製結束バンド



植物由来で水と二酸化炭素に分解する樹脂

生分解性インシュロックはとうもろこし由来のプラスチックであるポリ乳酸を主原料としています。コンポスト^{*}(堆肥化)装置などの適切な環境下で処理することで、温度・湿度などの影響による加水分解、その後微生物による生分解が起こり、最終的にほぼすべてが水と二酸化炭素に分解して自然界へと循環していきます。

^{*}生ごみや落ち葉、枯れ草などの有機物を微生物の発酵分解によって堆肥化するための装置

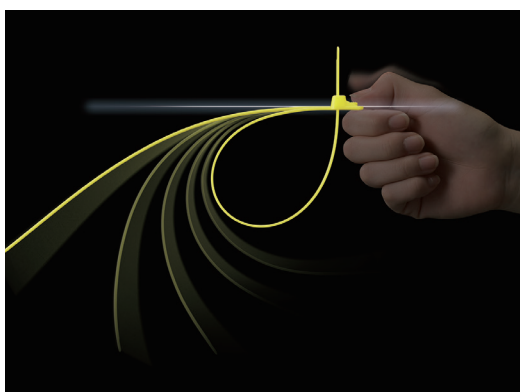
ガルバロックシリーズ：バイオマスプラスチック製品シリーズ



カーボンニュートラルに貢献

ガルバロックの主原料はヒマ(トウゴマ)の実からなる植物由来度94%以上のバイオマスプラスチックです。枯渇性資源(原油)を節約でき、燃焼処理エネルギーも低いため、カーボンニュートラルに貢献する環境にやさしい製品です。11ナイロン製で約20年相当の耐候性促進試験時間経過後もほとんど強度の低下がみられず、耐薬品性・耐熱性・耐塩害性にも優れているので、紫外線の当たる屋外や高温環境下、沿岸部や降雪地帯での施工に最適です。

アウトレバー・リピートタイ：再結束が可能な結束バンド



片手で簡単にリリース可能

アウトレバー・リピートタイは、取り外し用のレバーがヘッドの外側についているため、片手で簡単にリリースすることができます。結束バンドを切断することなく繰り返し使用できるため、廃棄物の削減に貢献します。

会社のお宝

ご紹介



ヘラマン結束システムの のルーツ



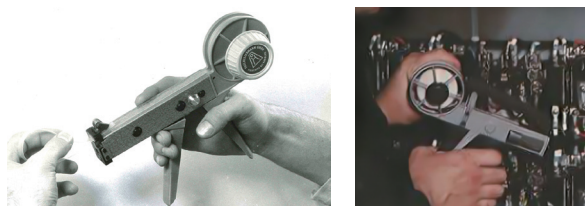
創設者である Paul Hellermann (1886-1958 年) は、1935 年にドイツのハンブルグにおいて、Woods/Dunlop 式の自転車バルブについていたゴム管 (虫ゴム) から発想を得て発明した Three-pronged pliers (三又プライヤー) や Chloroprene rubber sleeves (ゴム製スリーブ) の販売を開始。



ヘラマン結束システムは、草創期のワイヤーハーネス製造者にとって最適な製品となりました。1930 年代初頭の電気配線はゴムで保護され、木綿糸で結束されていました。Paul Hellermann は、ケーブル末端処理の摩耗防止ゴム製スリーブの装着作業について、拡張させることで容易にケーブルに装着できる独創的なシステムを考案しました。



1965 年に業界初のストラップを連続で結束可能にしたシステム Tyton System を発売。また、2 年後にそこから派生し製品化されたカーベルラップとその専用工具は、現在でも販売されています。



タイトンシステム